『玉藻』総目次（第一号～第三十号）

○創刊号　昭和四十一年三月二十五日発行

紫の匂へる妹
——「妹」と「妻」との対応について——　瀬古　確
接続からみた枕詞
——土地に冠するもの——　松永多恵子
「春の鳥」とワーズワース　鈴木二三雄
『荒野』時代の武者小路實篤　遠藤　祐
彙　報
編集後記

○第二号〈瀬古確教授還暦記念特集号〉昭和四十二年三月十日発行

貧窮問答歌の〝問答〟に於けるリアリスティックな志向について　高木市之助
万葉集巻十六の用字　瀬古　確
「今はこぎ出な」
——出字の訓をめぐって——　鶴　久
人麻呂枕詞小考　久保　昭雄
未然形承接の終助詞「な・なも・ね」　後藤　和彦
「男じもの」試解　松永多恵子
新古今歌人の伝統継承意識　蓑茂　二重
「源氏物語」における「——せたまふ」「——させたまふ」の考察　大野　玲子
八木重吉の詩について　鈴木二三雄
武者小路実篤覚え書　遠藤　祐
南朝楽府詩の創作方法　小西　昇
瀬古教授還暦記念業績一覧
彙　報
編集後記

○第三号　昭和四十三年五月二十五日発行

萬葉集二三七四「歳経管」の訓について　後藤　和彦
萬葉集三・四・六・八の用字　瀬古　確
領巾の別れ　松永多恵子
レトリックからみた梶井文学
——譬喩を中心に——　鈴木二三雄
『白樺』のふたつの個性
——武者小路実篤と志賀直哉——　遠藤　祐
正徹と五山文学ノート
——胡蝶の歌十二首と横川景三——　小泉　和

○第四号　昭和四十四年六月三十日発行

夏目漱石研究
——「安らぎを得るための追求」——　赤城　佳子
有島武郎
志賀直哉
——不和という題材を中心として——　塚木　敏子
谷崎文学の女
——「蓼喰ふ蟲」に見る谷崎の女性観の変遷——　西村　朋子
大伴坂上郎女
——作品と作歌態度——　安藤マリコ
童話文学における芸術的文学的価値性について・序　大口　邦子
八木重吉研究
随想
「春の雪」　飯野　敦子
宇高　悦子
白石　文子

○第五号　昭和四十四年七月十日発行

「古都」鑑賞
——「伊豆の踊子」「春景色」との関聯において——　瀬古　確
「のんきな患者」について　鈴木二三雄
万葉集の髪と髪飾り　松永多恵子
醒睡笑と宇治拾遺物語　岡　雅彦
正徹の螢の歌
——伝統の継承と創造（一）——　小泉　和

○第六号　昭和四十五年五月三十日発行

助詞「し」について　佐藤　信子
宇治拾遺物語の世捨人説話について　立間　和子

○第七号　昭和四十六年九月三十日発行

戦後派作家と宗教　増谷　文雄
語構成に関する史的一考察
——用言と体言との複合の型について——　小池　清治
「御宇」の訓について
——「アメノシタシラシメシシ」の妥当性——　川上峰恵子
川端康成「みづうみ」　白石　文子
学生のための現代詩鑑賞　河村　政敏
『前田家尊経閣蔵長治二年鈔本　冥報記』傍訓索引　小池　清治
彙　報
昭和四十五年度卒業論文題目
受贈図書

○第八号　昭和四十七年三月十日発行

蜻蛉日記の対兼家表現における敬語否定論　木村　正中
学生のための現代詩鑑賞（二）　河村　政敏
日本古典文学大系本義経記　人物索引　中野　昭子
彙　報
昭和四十六年度卒業論文題目

受贈図書

○第九号　昭和四十七年十二月十五日発行

「初音草咄大鑑」の方法　岡　雅彦
心中天網島にみる改作の実態とその必要性　河島みち代
現代詩鑑賞（三）　河村　政敏
語義差と位相差
——ヤドとイへの問題から——　金子　純子
「夫」の呼称に関する研究
——女子学生の調査を通して——　望月　博美
「新生」における旅　小林　洋子
幸田文の文学について　山田　道代
彙　報
受贈図書

○第十号　昭和四十九年五月三十一日発行

形容詞「悪しい」の消滅について　小池　清治
蜃気楼の世界　熊谷　啓子
草根集歌枕地名索引稿　小泉　和
万葉集の涙　粂川　光樹
彙　報
昭和四十八年度卒業論文題目
受贈図書

○第十一号〈高木市之助先生追悼号〉昭和五十年五月三十一日発行

弔辞にかえて　遠藤　祐
高木市之助先生と共に　瀬古　確
略年譜
『好色五人女』論ノート
——趣向と方法——　堀切　実
二葉亭四迷小論　岸　悦子
草根集歌枕地名索引稿（さ～そ）　小泉　和
「やみにけり」を通してみた平仲物語の一考察　渡辺　寿子
明石の君について
——第二部を中心に——　広沢　恵子
太宰治『人間失格』論　兼丸　牧子
方言変化の実態
——熊本県菊池方言の場合——　牧　美由紀
〈レポート紹介〉
『去来抄』〈切られたるゆめはまことか……〉の条をめぐって　伊藤　澄子
近代文学研究と私　原田　和子
彙報
昭和四十九年度卒業論文題目

○第十二号　昭和五十一年七月十日発行

志賀直哉
——その作家以前についての覚え書き——　遠藤　祐

滑稽本の描写法
——一九・三馬の比較を中心に——　伊藤　澄子
伊東静雄論　遠山ゆつき
「さすが」と「さすがに」について　伊澤多美子
草根集歌枕地名索引稿（な～ほ）　小泉　和
紫式部集用語索引　久保木哲夫
彙報
昭和五十年度卒業論文題目

○第十三号　昭和五十二年七月十日発行
安部公房論
——その疎外者意識をめぐって——　小野やよひ
『お伽草子』論　八幡美津子
蕉風連句における人物像　久野　孝子
現代日本語における文語表現の研究　大久保優子
『くふ』についての一考察　斎藤　智子
彙報
昭和五十一年度卒業論文題目
【講演】
西洋中世の騎士道とわが国王朝の色好み　中村真一郎

○第十四号　昭和五十三年十月十日発行
古代における太陽信仰　加藤そのい
俳人凡兆論　早川　嘉恵
中島敦論
——内面の悲劇——　柳生　智恵
坂口安吾論
——その堕落世界の構造——　筒井由里子
中世における仮名使用の研究
——奈良絵本の仮名使用を中心に——　岩井田　満
木下杢太郎論　松下　慶子
立原道造論　飯山　暁子
『斜陽』論　鈴木麻里子
『仮面の告白』論　橋本三智子
彙報
昭和五十二年度卒業論文題目

○第十五号　昭和五十四年六月十日発行
ツクヨミの研究　小杉　祐子
大隈言道の歌論　鈴木　郁子
甘泉堂・和泉屋市兵衛について　佐竹　秀子
長与善郎論
——その自我意識の成立をめぐって——　池田由美子
風立ちぬ、いざ生きめやも　安江理恵子
ガ行鼻濁音について
——現代若年層の発音の実態——　安栄　京子
彙報
昭和五十三年度卒業論文題目

○第十六号　昭和五十五年六月十日発行

古代吉野小考　高崎　晴子
平家物語における個と全
——平維盛・重衡を中心として——　斎藤　由紀
『昨日は今日の物語』諸本考　高橋與理子
愛と苦悩のあいだ
——「人間失格」をめぐって——　石川まなみ
農業の習俗に関する語彙について　飯酒盃悦子
彙報
昭和五十四年度卒業論文題目

○第十七号〈瀬古確先生追悼号〉　昭和五十六年六月二十九日発行

瀬古確先生を偲ぶ　遠藤　祐
略年譜
家持の歌日記巻における題詞と左注の一考察　谷口　理恵
『更級日記』における夢　本宮麻実子
香川景樹の歌論
——「誠実」の説をめぐって——　香取　庸子
田園の憂鬱
——その構造をめぐって——　松賀　美幸
三島由紀夫『近代能楽集』論　川島　操
石上玄一郎論
——「転向」を軸として——　杉浦あをひ
キリシタン版『伊曽保物語』の「帝王」「国王」について　佐藤佐知子
草根集歌枕地名索引稿（や～を）　小泉　和
彙報
昭和五十五年度卒業論文題目

○第十八号　昭和五十七年六月二十九日発行

土地柄と人心
——西鶴の認識の一つの型・その時代との関わり——　藤江　峰夫
定家の恋歌に於けることばの使い方　本池　有子
神奈川県下に現存する湯立神楽の変容
——特に「職掌」の関与する神楽について——　渡部ますみ
元禄歌舞伎における〈写実〉の芸について
——『役者論語』の芸論をめぐって——　田口　章子
「ロマネスク」論
——太宰治の求めたもの——　佐藤　朋子
彙報
昭和五十六年度卒業論文題目

○第十九号　昭和五十八年六月三十日発行

新葉和歌集の風景表現（一）　小泉　和
〈自然の愛〉の両儀性
——『それから』における〈花〉の問題——　浜野　京子
太宰治「晩年」論　栗原　佳江

立原道造論
——〈物語〉を中心に——　宍戸　和子
「源氏物語」における敬語表現とその意識
——心中敬語を中心に——　坂井　桂子
スサノヲの原像と変貌　武内　祐子
「ゆう」と「むすぶ」の相違についての考察　金沢　美樹
彙報
昭和五十七年度卒業論文題目

○第二十号　昭和五十九年十二月十二日発行
「二つの道」の意義　福田準之輔
『更級日記』研究　長野美佐子
「偸盗」における女性論　御幡　晶子
堀辰雄論　松本　典枝
東国の地名の研究　疋田　佐和
彙報
昭和五十八年度卒業論文題目

○第二十一号　昭和六十年十二月二十七日発行
額田王の一考察
——その出自について——　白石　節子
若小君物語の位相
——宇津保物語における文脈の差異と統合——　三田村雅子
『西鶴諸国ばなし』巻三の七
——「因果の抜け穴」考——　今野ゆかり
芥川龍之介「侏儒の言葉」論
——その創作過程とアフォリズムの世界に関する一考察——　濱田　葉絵
芥川龍之介小論
——〈狂人の娘〉（「歯車」「或阿呆の一生」）
〈復讐の神〉（「歯車」）と父の〈性〉への忌避をめぐって——　宮坂　覺
昭和五十九年度卒業論文題目
彙　報

○第二十二号　昭和六十一年十二月三十日発行
万葉歌人軍王と百済王子豊璋　関　晃
源氏物語における恋の方法
——仲立ちする人々をめぐって——　前田　恵
南北朝和歌の風景表現〈浮雲〉
——新拾遺集の世界——　小泉　和
『風流志道軒伝』をめぐって　清水　崇子
山本周五郎「縦ノ木は残った」研究　清水　孝子
安部公房試論
——その《共同体》の構図・『砂の女』まで——　土倉麻里子
昭和六十年度卒業論文題目
彙　報

○第二十三号　昭和六十二年十二月三十日発行

万葉歌人研究
——中皇命をめぐって——　鈴木　忍
『本朝水滸伝』考　前川　直美
芥川龍之介試論
——芥川文学と漱石——　安藤　公美
野上弥生子「迷路」研究
——改稿の意義について——　田中　志穂
敬語における丁寧表現の研究
——「いたす」について——　植　麻喜子
黄表紙の入紙から
——安政二年の櫓替に関する河原崎権之助の資料断簡——　藤江　峰夫
昭和六十一年度卒業論文題目
彙　報

○第二十四号〈小泉和先生・佐藤喜代治先生御退職記念号〉平成元年三月十日発行

小泉和先生　佐藤喜代治先生を送る　福田準之輔
小泉　和先生年譜・著作目録
佐藤喜代治先生年譜・著作目録
百首歌における眺望題の成立
——為忠家百首の位置——　小泉　和
漢字字訓の研究
——徇・貫・殆・掍について——　佐藤喜代治
いま、記憶に残ること
——佐藤・小泉両先生賛——　堀切　実
百済砂宅智積造寺碑について　関　晃
枕草子「〜もの」章段の位相
——〈もの〉の裂け目——　三田村雅子
出羽弁に関する二・三の問題　久保木哲夫
藤原俊成における「姿」
——〈一句引用〉の姿について——　渡部　泰明
『鼠草子』『雁の草子』考
——怪奇的婚姻譚の語るもの——　滝村　典子
嘘とまことの間
——遊里における人間認識について——　藤江　峰夫
一休ばなし二題
——明治の講談速記本を中心に——　岡　雅彦
指輪のゆくえ
——『それから』の〈物語〉——　遠藤　祐
「或る女」について
——後篇の主題と構成——　福田準之輔
芥川文学における二つの〈処女の焚死〉
——「地獄変」と「奉教人の死」をめぐって——　宮坂　覺
古代語彙における併存する同（類）義語
——目・マナコ型の東西分布——　安部　清哉
「さうび」と「くたに」について　安東　雅子
「連用成分素」について

——危険な例文——　小池　清治
現代日本人の標準語感覚　佐藤　亮一
昭和六十二年度　国文学科卒業論文題目
彙　報

○第二十五号〈関晃先生御退職記念号〉　平成二年三月三十日発行
関晃先生を送る　福田準之輔
関晃先生年譜・著作目録
百済の砂宅智積について　関　晃
「柏」「樗」の字訓　佐藤喜代治
紫式部日記の〈光〉と〈闇〉
——闇の底へ——　三田村雅子
「ふるまふ」・「ふるまひ」考
——藤原俊成・顕昭の歌合判詞を中心にして——　渡部　泰明
西鶴の咄の種
——『西鶴諸国はなし』中の三篇をめぐって——　藤江　峰夫
芥川文学にみる〈ひとすぢの路〉
——「蜜柑」「トロッコ」「少年」をめぐって——　宮坂　覺
上代における日本語の二つの層（上）
——カゾフとヨムの場合——　安部　清哉
『方言文法全国地図・第一集』を刊行して
——その特色と問題点——　佐藤　亮一
有間皇子の歌　久保田恭子
石見相聞歌初案成立の意義　福本　容子
明石の君の「異郷」
——六条院を中心に——　久保　圭子
浮舟・さすらいの物語空間　横山由美子
「問はず語り」研究　古武　律子
『暗夜行路』研究　宇佐美聖子
芥川における〈罪〉と〈罰〉
——「河童」「歯車」を中心に——　曳地久美子
中原中也研究
——愛児文也をめぐって——　三木麻里子
島尾敏雄の文学
——その愛を中心として——　穴場　紫野
「しぐれ」考　新井　映子
昭和六十三年度　国文学科卒業論文題目
彙　報

○第二十六号　平成三年三月十日発行
有間皇子事件の政治的背景　関　晃
柿本人麻呂の近江荒都歌をめぐって　赤染　温子
笠女郎の作歌と大伴家持の年齢について　入江　恵美
芥川龍之介「一塊の土」研究
——作品の位置をめぐって——　岸　和枝
日本正教会邦訳聖書の国語学的位置付け
——「天使」「復活」を中心に——　気仙　友恵
『和泉式部日記』文体・位相別自立語索引稿　安部清哉 国語学ゼミ学生

〈研究ノート〉
「雨」をめぐる語彙の歴史　東條　絵里
一九八九年度卒業論文題目
彙　報

○第二十七号　平成三年十月九日発行
驚かす声
——蜻蛉日記・麻痺と覚醒の構図——　三田村雅子
大津皇子の文学に関する一考察　熊谷絵里花
拒まれた楽の音
——紫の上と音楽——　樋浦美奈子
鈴虫巻女三宮持仏開眼供養の位相
——方法としての〈モノ〉——　山口　量子
夢窓疎石における〈山〉と〈庭〉
——夢窓が変えようとしたもの——　西山　美香
「こころ」を読む
川端康成「住吉」連作論
——〈魔界〉とその終焉——　井上　朝子
一九九〇年度卒業論文題目　磯田　直美
彙　報
会　則

○第二十八号　平成四年六月三十日発行
生産的な共生のために
——他者とともに生きる——　大江健三郎
『源氏物語』遅咲きの桜考　伊東　悦子
古代文学における〈兄妹〉
——古事記の世界をめぐって——　小林　薫
古代文学と月　山川　紀子
源氏物語における距離の意識
——「若菜」以降の紫の上を中心に——　土田智香子
芥川龍之介研究
——語り手考——　柴田麻由子
宮沢賢治研究
——グスコーブドリと賢治と修羅と——　田澤　典子
大江健三郎論
——信仰を持たない者の祈り——　細野　雅美
近松世話物の漢語について
——近松と『徒然草』との関係に触れて——　石橋美乃里
盛岡市方言のアクセント　宮　淑
〈研究ノート〉
歌舞伎脚本における漢語について
——女性話者の対男女別使用率の特異性——　柳田　旬子
一九九一年度卒業論文題目
彙　報
会　則

○第二十九号　平成五年六月三十日発行

堀辰雄研究
——《ロマン》志向における『風立ちぬ』の意義——　髙橋　典子
方言における無助詞現象の実態
——方言談話を資料として——　岸　佐智子
阿波方言語彙の研究　山下亜紀子
源氏物語の「玉の瑕」
——光と闇の両義性をめぐって——　石坂　晶子
萩原朔太郎『青猫』論
——詩中における女性像の変化を中心に——　五本木千穂
井伏鱒二『山椒魚』論　望月　暁子
大江健三郎論
——神なき時代での挑戦——　横田　信恵
中世軍記物語五作品の形容詞用例数語彙表（稿）　安部　清哉・国語学ゼミ学生
一九九二年度卒業論文題目
彙　報
会　則

○第三十号　平成六年六月三十日発行
『建礼門院右京大夫集』六一～六四番の解釈をめぐって　谷　知子
「たうめ」小考　森下　礼子
若者の略語に関する研究　丸山　真生
万葉集四季歌の研究　側島　知絵
宇治十帖の〈香り〉
——闇の中の〈香り〉——　三好　章子
『源氏物語』における月の光の研究　亀本　佳子
唐物語研究　山口有紀子
『男色大鑑』後半部の意図について　田口　禎子
安部公房文学研究
——〈砂〉と〈壁〉をめぐって——　北村　直理
夏目漱石「三四郎」論
——美禰子の結婚——　内田　詞子
『聖家族』論　髙橋　直子
志賀直哉『網走まで』論
——その〈男性の語り〉をめぐり——　大坂　友子
J・C・ヘボン『和英語林集成』初版・再版・三版の形容詞
——和英の部見出し語形の変化——　森　温子
一九九二・三年度修士論文
一九九三年度卒業論文題目
彙　報
会　則